

■殺菌剤：農業用

ピリジナミン系

フロンサイド®水和剤

登録番号：22629

毒性：－

消防法：－

有効年限：5年

成分 フルアジナム……50.0%

物理的・化学的性状 淡黄色水和性粉末45 $\mu$ m以下

包装：500g×20

◆特長

- 抗菌スペクトラムの極めて広い殺菌剤です。
- 既存の薬剤耐性菌にも優れた効果があります。
- 残効性、耐雨性に優れ、低濃度で強力な防除効果を発揮します。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数		
か ん き つ	そうか病 灰色かび病 ミカンサビダニ	1,000～ 2,000倍	200～700 $\text{L}$ /10a	収穫30日前 まで	1回	散布	1回		
	苗疫病 黒点病 ミカンハダニ	1,000倍							
り ん ご	斑点落葉病 黒星病 輪紋病	1,000～ 2,000倍		2,000倍				収穫45日前 まで	2回以内 (散布は1回以内、 土壌灌注は1回 以内)
	すす点病 すす斑病 褐斑病								
	も も	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病							
な し	黒斑病 黒星病 輪紋病	1,000～ 2,000倍		収穫30日前 まで					
う め	黒星病			発芽期まで 但し、収穫 60日前まで					
ぶ ど う	晩腐病 べと病 枝膨病 灰色かび病 黒とう病	2,000倍		開花直前～ 落弁期 但し、収穫 60日前まで					
	黒とう病	250倍	休眠期						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数		
キウイフルーツ	灰色かび病 果実軟腐病	1,000～ 2,000倍	200～700ℓ ／10a	収穫30日前 まで	1回	散布	2回以内 (散布は1回以内、 土壌灌注は1回 以内)		
小 麦	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病 雪腐大粒菌核病	1,000倍	60～150ℓ ／10a	根雪前	2回 以内		3回以内 (は種前は1回以内、 は種後は2回以内)		
	雪腐小粒菌核病	250倍	25ℓ／10a						
ばれいしょ	菌核病 疫病	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫14日前 まで	4回 以内		6回以内 (種いも浸漬は1回 以内、植付前の土壌 混和及び植付時の 植溝散布は合計1回 以内、植付後の散布 は4回以内)		
		500倍	25ℓ／10a						
		800倍	40ℓ／10a						
	夏疫病	2,000倍	100～300ℓ ／10a						
そうか病	100倍	—	—	植付前	1回		種いも 瞬間浸漬		
やまのいも	葉渋病	2,000倍		収穫7日前 まで	4回 以内		5回以内 (植付前の土壌混和 は1回以内、植付後 の散布は4回以内)		
やまのいも (むかご)								4回以内	
あ ず き	炭疽病 灰色かび病	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫21日前 まで	3回 以内	3回以内			
	菌核病 輪紋病	1,000倍							
いんげんまめ	炭疽病 灰色かび病	1,000～ 2,000倍							
	菌核病								
べにばないんげん	灰色かび病								
ご ぼ う	黒条病	1,000倍							
に ん じ ん	黒葉枯病								
た ま ね ぎ	灰色腐敗病 べと病 灰色かび病	1,000～ 2,000倍		25ℓ／10a			収穫7日前 まで	5回 以内	6回以内 (苗根部浸漬は 1回以内、散布 は5回以内)
	灰色かび病	500倍							
	白色疫病	1,000倍		100～300ℓ ／10a					
	乾腐病	50倍	—	定植直前	1回	5分間 苗根部 浸漬			

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数
らっきょう	灰色かび病	2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫14日前 まで	5回 以内	散布	5回以内
	白色疫病	1,000倍		収穫終了後 但し、 秋期まで			
アスパラガス (露地栽培)	茎枯病 斑点病	1,000～ 2,000倍	—	—	—	—	—
パイナップル	心腐病	1,000倍	—	植付前	1回	20分間 苗浸漬	1回
食用ゆり	葉枯病	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫14日前 まで	6回 以内	散布	7回以内 (球根瞬間浸漬は 1回以内、散布 は6回以内)
	鱗茎さび症	50～ 200倍	—	植付前	1回	球根 瞬間浸漬	—
てんさい	根腐病	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫30日前 まで	4回 以内	株元散布	5回以内 (は種前の土壌混和 及び苗床灌注は合計 1回以内、株元散布 は4回以内)
	黒根病	1,000倍	—	移植前		苗床 土壌灌注	
茶	炭疽病 輪斑病 網もち病 新梢枯死症 (輪斑病菌による) 灰色かび病	2,000倍	200～400ℓ ／10a	摘採14日前 まで	1回	散布	1回
たばこ	菌核病	1,000倍	100～200ml ／株	大土寄期 まで	—	株元灌注	—
チューリップ	灰色かび病 褐色斑点病	2,000～ 4,000倍	100～300ℓ ／10a	発病初期	7回 以内	散布	7回以内
	球根腐敗病 皮腐病	100～ 200倍	—	植付前	1回	15分間 球根浸漬	
ゆり	葉枯病	2,000倍	100～300ℓ ／10a	発病初期	3回 以内	散布	3回以内
	鱗茎さび症	100～ 200倍	—	植付前	1回	球根 瞬間浸漬	

作物名	適用病害虫名	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルアジナムを含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
ばれいしょ	粉状そうか病 塊茎褐色輪紋病	600 g / 10 a	100 ℓ / 10 a	植付前	1回	全面散布 土壌混和	6回以内 (種いも浸漬は1回以内、植付前の土壌混和及び植付時の植溝散布は合計1回以内、植付後の散布は4回以内)
小麦	縞萎縮病			は種前			3回以内 (は種前は1回以内、は種後は2回以内)
チューリップ	条斑病 微斑モザイク病			植付前			7回以内

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

### ◆注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤は、保護効果主体の薬剤であり、病原菌に感染した後の処理では効果が不十分な場合があるので注意すること。
- (3) かんきつに使用する場合は次の事項に注意すること。
  - 1) レモンには薬害を生じるので使用をさけること。
  - 2) ネーブル、ハッサク、清見等品種によっては薬害を生じる場合があるので注意すること。
  - 3) 病害とハダニ類の同時防除に使用する場合、かけ残しのないように丁寧に散布すること。
  - 4) 黒点病に対する防除は、そうか病、灰色かび病との同時防除として使用すること。なお、多発時の黒点病に対しては効果が劣ることがあるので注意すること。
- (4) りんごの褐斑病に対しては、多発時には効果がやや不十分な場合があるので注意すること。
- (5) なしに使用する場合、展葉期の散布は品種により、葉に薬害を生じるので注意すること。特に幸水、豊水、新水等には薬害を生じやすいので発芽期から落花後30日までの間は使用をさけること。
- (6) ぶどうに使用する場合、使用時期を誤ると葉や果実に薬害を生じるので使用時期を厳守すること。なお、ネオマスカットは特に薬害を生じやすいので使用をさけること。
- (7) 本剤と他剤との混用は、薬害を生じやすいので注意すること。特に、なし、ぶどう、もも及びうめでは十分注意すること。なお、うめについては発芽期までの使用に留めること。
- (8) きゅうり、レタス等には薬害を生じるおそれがあるので、周辺にそれらの作物がある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (9) 全面散布土壌混和で使用する場合、所定量の薬量を均一に散布し、土壌と十分混和すること。降雨直後の処理は混和おらの原因となるのでさけること。
- (10) ばれいしょ、たまねぎ及び小麦に対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

- (12) 本剤の使用に当たっては使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。
- (14) フロンサイド剤と他農薬を混用する際に高アルカリ用水（pH10以上）で希釈すると、凝集物が発生する場合があるので、高アルカリ用水による希釈はさけること。
- (15) ベフラン液剤と混用する場合は、物理性改良のために展着剤ダイコート（2000倍）を加用すること。混用順序は①ダイコート②フロンサイド水和剤③ベフラン液剤とすること。

### ◆安全使用上の注意

- (1) 本剤は皮膚感作性を有するため、皮膚かぶれ等を生ずることがあるので、以下の点に注意すること。
  - ① かぶれやすい体質の人及び本剤又は他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触はさけること。
  - ② 薬液調製時及び散布等の作業の際は帽子、保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
  - ③ 降雨時又は樹木が濡れている場合には作業を行わないこと。
  - ④ 剪定、施肥、摘果、除草、袋かけなどの管理作業をすませてから散布すること。
  - ⑤ 散布後の入園はできる限り期間をおくこと。特に摘果、袋かけのような作業を行う果樹では少なくとも7～10日間の期間をあけること。
  - ⑥ 散布後の入園の際も、帽子、保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
  - ⑦ 散布等の作業後及び摘果等のため散布後入園し作業した後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
  - ⑧ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
  - ⑨ 施設内では使用しないこと。
  - ⑩ 高温、多湿時の長期間の散布及び作業は避けること。
  - ⑪ 苗床で本剤を使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないよう注意すること。
- (2) 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。皮膚に付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

### ◆魚毒性

- (1) 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。